

岩偶(がんぐう)が「特別展」およびジャポニスム2018「縄文展」に出展されます



記者会見の様子

当市松野木地区の観音林遺跡から出土した岩偶が東京国立博物館で開催される特別展「縄文—1万年の美の鼓動」(会期：7月3日～9月2日)およびパリで開催されるジャポニスム2018「縄文展」(会期：10月17日～12月8日)に出展されることになり、6月15日、市役所庁議室にて記者会見が行われました。

岩偶は、昭和62年の発掘調査で出土したもので、長さ11.8センチ、幅(最長の肩幅部分)7.2センチ、重さ81.9グラムの縄文時代晩期の石製品で、体部に入組状の曲線文が施されており、全体に赤色顔料が塗られています。土偶に比べて数も圧倒的に少なく、ほぼ完全な形で出土するのは、非常に珍しく貴重な岩偶となっています。

五穀豊穰・無病息災を祈願「相内虫送り」



相内の虫送りの様子

6月9日、五穀豊穰と無病息災を願う「相内虫送り」が市浦相内地区で行われました。

虫送りは、毎年田植えが終わる早苗饗(さなぶり)の頃(現在は毎年6月第2土曜日)に行われている伝統行事で、全長約5メートルの「虫」を載せた台車を先頭に青年団のメンバーが約2メートルの「子虫」を担ぎ、また農作業を嫌う「荒馬」を演じたほか、「はねろじゃはねろ、けっばれじゃけっばれ、いつもこんだぼどつすべな」の掛け声とともに、木でできた太刀を地面に打ち付ける「太刀振り」が笛や太鼓の囃子に合わせて沿道を練り歩きました。400年から450年の歴史があると言われる「相内虫送り」は、平成23年に、県無形民俗文化財に指定されています。

行政相談委員・関節雄氏が東北管区行政評価局長表彰を受賞



東北管区行政評価局長表彰を受賞した関節雄氏(中央)

当市の行政相談委員・関節雄氏の長年に渡る活躍に対し、5月30日に青森市で行われた式典で東北管区行政評価局長から表彰状が授与され、6月7日、副市長へその報告をしました。

行政相談委員は市民の皆さんが毎日の暮らしの中で、行政が行う仕事についての苦情や意見・要望があったとき、身近な相談相手になります。「行政機関に直接苦情を言いづらい」「どこへ相談すれば良いかわからない」「苦情を伝えたがその対応に納得できない」などの相談をしたいときは、お気軽にご利用ください。相談無料、秘密は厳守しますので、ご安心ください。

なお、市では定期的に行政相談日を設けています。開設日時は、毎月の広報(今号は11ページを参照)や市ホームページをご覧ください。

太宰治生誕祭が開催されました



銅像に祝花をする参加者の皆さん

当市出身の作家・太宰治の生誕109年の式典が6月19日、金木芦野公園太宰治銅像・文学碑前で行われました。生誕祭では太宰の長女・津島園子さんが「太宰が亡くなって今年で70年になりますが、今でも皆さんに愛されており、文学の力を感じます」とあいさつしました。

金木太宰文集「新樹」へ掲載された読書感想文を金木小、金木中、金木高校の生徒が朗読し、金木女声合唱団チェリーコールなど合唱団の皆さんの歌声が響く中、参加者が銅像へ花を捧げていました。

来年は太宰治生誕110年であり、それを記念したイベントが行われる予定となっています。